事業所名	児童発達支援センターひかりの子（児童発達支援）	**支援プログラム**	作成日	2025 年	3 月	10 日

		キリスト教精神に基づく「隣人愛」
支援方針		施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します ・すべてのライフステージで支援をおこなう。 ・障害支援の高い専門性を持つ。以下の2点を重視する。 1. 深い障害理解に基づいた高いQOL（生活の質）の提供　2. 障害専門医療
営業時間		9 時　0 ～ 16 時　45 分　｜　送迎実施の有無：あり　(なし)
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	体調観察や適切で安全な医療的ケアを実施し、体調良く過ごせるように支援します ・通園する生活リズムに慣れ、安心して過ごせるよう支援する　・安全に栄養が摂れ、楽しく食事ができるよう支援する(管理栄養士や摂食指導医師との連携) ・身の回りのこと(基本的生活スキル)に関心が向き、新しくできることが増えるよう支援する
本人支援	運動・感覚	個別の運動機能に合わせて、楽しく体を動かせられるように支援をします(作業療法士、理学療法士による機能訓練含む) ・適正な運動感覚を得るための環境設定(装具装着、眼鏡、補聴器、姿勢保持装置など)　・目的に合せたさまざまな姿勢になれるよう支援する ・楽しく体を動かし、運動機能を促す
本人支援	認知・行動	個別にじっくりと関わることを大切にし、一人ひとりにあった遊びや興味関心を見つけていけるよう支援します ・個々の年齢や発達段階、興味関心の対象の理解に基づいた活動を提供する　・活動や遊びを通して満足感を得られるように支援する ・さまざまな経験や遊びを通して新しい発見や興味関心が広がるよう支援する　・活動や遊びを通して「やってみたい」気持ちが持てるよう支援する
本人支援	言語 コミュニケーション	気持ちが相手に伝わる経験を通して、他者と心地よいコミュニケーションがとれるよう支援します ・視線を合わせて声をかける　・場面や気持ちに合せたことばかけをする　・表出(発声、視線、体の動きなど)から気持ちや要求を汲み取り丁寧な関わりを持つ ・指さしや身振りで気持ちを伝えられるように支援する
本人支援	人間関係 社会性	他者との関わりを通して、人とのやりとりを楽しめるよう支援する ・他児の様子を傍で感じられる環境設定(姿勢や視線、距離感への配慮)をする　・活動や遊びを通してできたことやうれしい気持ちを共有する ・職員が間に入り子ども同士の関わりを持てるよう支援する　・遊びの中で順番を意識できるようにする　・1日の流れを見通すことができるよう支援する
家族支援		ご家族が安心してご利用できるよう支援します ・個別面談を通しての情報共有・管理栄養士との栄養相談 ・保育だよりの発行・ご家族同士の交流機会の設定(懇談会・保育参観)
移行支援		成長発達に合せて適切な支援体制がとれる様に支援します ・個別の発達段階を定期的に確認し、適切な支援体制を検討 ・就学時の移行支援(特別支援学校・放課後デイサービス　など)
地域支援・地域連携		関係機関との情報共有と連携を行い、支援します ・相談支援事業所や並行利用事業所との情報共有や連携 ・関係医療機関(主治医・リハビリ・訪問看護など)との情報共有や連携
職員の質の向上		防災訓練(月1回/全職員)・緊急時蘇生訓練BLS(年2回/全職員) 通所部門研修(年1回/全職員)・虐待防止研修(年1回/全職員) 看護師、児童支援員ラダー評価制度の実施・実習見学者の受入れ 通所部門学習会(年数回/希望者)・外部研修への参加
行事など		春：事業者説明会・保育参観　夏：水遊び　秋：運動会・個別面談(ご希望者)　冬：クリスマス会・卒園式　など